

岩手県環境保健研究センター *Iwate Prefectural Research Institute for Environmental Sciences and Public Health (I-RIEP)*

kanpokenbunroku

環保研聞録 ~I-RIEP Journal~ 第6号



2016年4月



「岩手県環境保健研究センター」では、県民のみなさんの健康といわての環境を守るため、健康・環境に関する科学的・技術的拠点として、次のような業務に取り組んでいます。

- ① 県民のみなさんの健康や環境に被害のおそれがある場合の対応
- ② 健康と環境を守るための試験検査・監視測定
- ③ 行政の課題に対応した調査研究
- ④ 技術支援・情報発信・研修指導

広報誌「環保研聞録 ~I-RIEP Journal~」では「環保研(かんぼけん)センター」の取組や健康・環境に関する情報を定期的にお届けしています。

新所長ごあいさつ

4月から所長に就任しました西村豊です。当センターでは、健康や環境に関する科学的・技術的拠点として、県民の皆様健康といわての環境を守るため、保健所や関係機関と連携しながら、試験検査、監視測定等の業務や研究を行っています。

特にも、感染症や食中毒などによる健康被害又は環境汚染につながる事故が発生した場合には、検査や調査を担当し、関係機関の支援や連携により、迅速で的確な問題の解決を図っています。

平成28年度は、東日本大震災津波復興実施計画(第2期)の最終年度と位置付けられています。当センターも、本格復興の完遂に向け、必要な試験検査や監視測定業務を引続き進めてまいります。

また、本年は「希望郷いわて国体」の本大会と「希望郷いわて大会」が開催されます。試験

検査業務を迅速、的確に行うことにより、大会の実施に貢献したいと考えています。

皆様からの御意見や御要望をいただきながら、行政や地域の課題に対応し、健康や環境に関する施策の推進に貢献していきたいと考えております。御支援のほど、よろしくお願いいたします。

岩手県環境保健研究センター
所長 西村 豊



ガンカモ類の生息調査を実施しました（地球科学部）

「ガンカモ類」とは、おもに冬になると日本に渡ってくるガン（雁）、カモ（鴨）、ハクチョウ（白鳥）などの水鳥のことで、私たちの生活や文化にも、とてもなじみ深い鳥たちです。このガンカモ類がどこにどれくらい生息しているかを調べる調査が、毎年1月、環境省の主催により全国で実施されています。岩手県では環境保健研究センターが、県内の多数の方々のご協力のもと、調査と取りまとめを行なっています。

2016年1月の調査では、ハクチョウ類は69か所で確認され、個体数は合わせて4,033羽でした。このうち95パーセントはオオハクチョウという種で、その数は年々増える傾向にあります。



写真：マガン

カモ類は、県全体で28,021羽がカウントされました。1番多かったのはカルガモ（7,094羽）、2番目はオナガガモ（6,995羽）、そして3番目はマガモ（6,461羽）でした。県内には大きな川やため池、ダム湖など多様な水辺環境があり、沿岸部では海にすむカモ類も観察されるので、県全体では21種類ものカモ類が生息していることがわかりました。

今年の調査で特徴的だったのは、天然記念物のマガンが過去最高の個体数、3,068羽になったことです。これまでは最も多い年でも1,300羽程度でした。マガンは宮城県北部の伊豆沼や蕪栗沼周辺に飛来し、日中は餌を食べに周辺部に分散して、岩手県南部にもやって来ます。宮城県で数が増えている影響で、県内にも多くのマガンが餌を求めて来るようになったと考えられます。古来より和歌に詠まれ、絵画や小説に描かれ、シンボルやキャラクターとしても愛されている雁の群れが、岩手の地でも安心して暮らしていける環境を作っていきたいものです。



写真：ヒドリガモ



写真：オオハクチョウ

平成26年度 東日本大震災津波被災圏域の健康課題について（保健科学部）

3月11日は私たち岩手県民にとって、決して忘れてはならない日です。当センターは「岩手県被災地健康支援事業運営協議会」に委員として参画し、「いわて健康データウェアハウス」等から得られる特定健診データを収集・解析して、被災地域の皆さまの健康課題を取りまとめ、情報提供しています。今回、平成26年度に実施した調査の結果をとりまとめましたので、一例について、ご紹介します。

〔対象〕 東日本大震災津波で被害にあわれた沿岸 12 市町村

気仙圏域・・・大船渡市、陸前高田市

釜石圏域・・・釜石市、大槌町、

宮古圏域・・・宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村

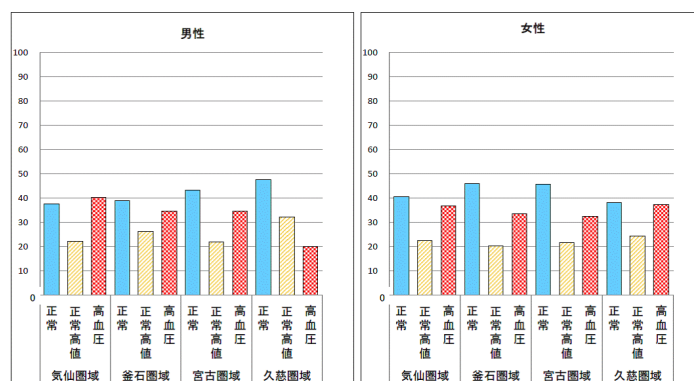
久慈圏域・・・久慈市、普代村、野田村、洋野町

・以下に示す図は、市町村国民健康保険が実施した、特定健診時（対象年齢 40～74 歳まで）の受診者が回答する「標準的な質問票」のうち、「現在血圧を下げる薬の使用の有無」と「血圧測定検査結果」から作成したものです。

「図1」は、「血圧を下げる薬を**使用している**」と回答した人について、血圧判定区分別・圏域別・男女別に示したものです。

「薬を使用しているも高血圧（赤）」の人が、各圏域に存在していることがわかります。男性では20～40%であり、被災圏域の中では気仙圏域が40%と特に高い状況でした。女性は、各圏域において30～40%でした。

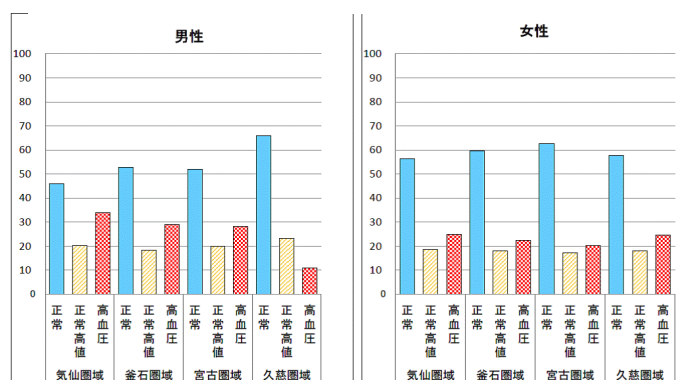
図1 血圧を下げる薬を『使用している』と回答した人の判定区分別・圏域別・男女別割合（平成26年度）



「図2」は、「血圧を下げる薬を**使用していない**」と回答した人について示したものです。

「高血圧でも血圧を下げる薬を使用していない（赤）」人が、男性では10～35%であり、こちらについても気仙圏域で特に高い状況でした。女性は、各圏域において20%台でした。

図2 血圧を下げる薬を『使用していない』と回答した人の判定区分別・圏域別・男女別割合（平成26年度）



血圧を下げる薬を使用しているも、適正な血圧管理ができていないと、脳卒中等の発症リスクが高まりますので、主治医に相談しながら生活習慣の改善を図ることが望まれます。また、高血圧で未だ医療機関を受診していない人は、早期に受診し、医師に相談されることをお勧めします。

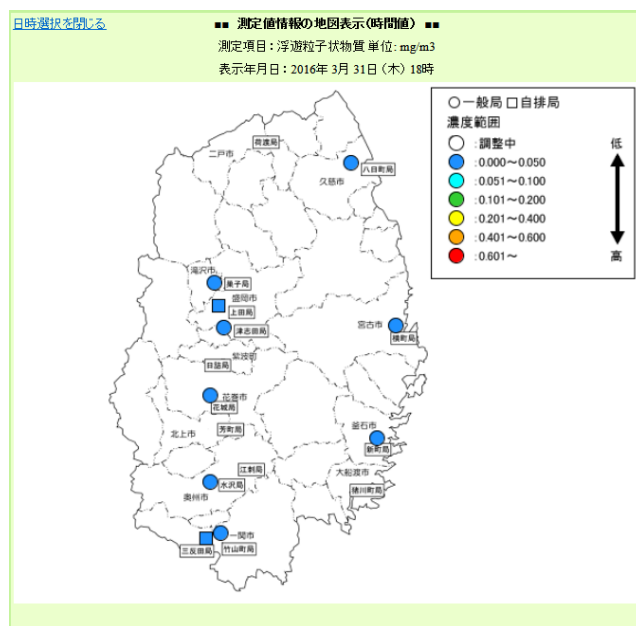
※高血圧	収縮期血圧 140mmHg 以上、	拡張期血圧 90mmHg 以上
正常高値（血圧）	収縮期血圧 130～139mmHg、	拡張期血圧 85～89mmHg
正常	収縮期血圧 129mmHg 以下、	拡張期血圧 84mmHg 以下

■保健科学部ホームページ「週刊 いわての健康 みんなの健康」ほぼ毎週金曜日更新！ぜひご覧ください。

大気汚染を 24 時間監視しています (地球科学部)

当センターでは大気汚染防止法に基づいて、岩手県の大気汚染の状況を把握するために、県内15地点（そのうち2地点は盛岡市の管理）で大気の調査を実施しています。調査は自動測定機で行われており、24時間365日、常にデータを収集しています。監視状況はインターネットにリアルタイムで公表されていますので、いつでも見ることができます。

常時監視している物質は二酸化硫黄、窒素酸化物、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質（SPM）、微小粒子状物質（PM_{2.5}）などです。本県でも光化学オキシダントとPM_{2.5}は環境基準を超過する地点がありました。光化学オキシダントとPM_{2.5}については、高濃度の注意報を「いわてモバイルメール」に登録することで誰でも無料で受け取ることができます。



いわての大気環境のページ
(<http://www.1a.biglobe.ne.jp/iwate-taiki/taiki/>)

※いわてモバイルメール「岩手県大気汚染情報」
(<http://www.pref.iwate.jp/kankyou/hozen/taiki/mail.html>)



【センターのさくらが開花しました】

盛岡城跡公園のさくらは4月11日に開花しましたが、環境保健研究センターのさくらも4月15日に開花しました。センターの敷地内では、たんぽぽも咲いており、モンシロチョウも見ることができました。いよいよ春本番ですね。



【編集後記】

新年度が始まりました。「希望郷いわて国体・いわて大会」では選手団や応援団をはじめ、多くの関係者が来県されます。皆様に安全・安心をお届けできるよう、環境保健研究センターでは食品衛生検査などを通し、運営を支えています。(こ)

《編集・発行》 岩手県環境保健研究センター 企画情報部

盛岡市北飯岡一丁目 11-16



TEL 019-656-5666 FAX 019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/>

